

山梨

矢野 文彬さん



「医師として患者助けたい」

福島県立医大

何かできる!
～山梨から

旅立ちの季節に、多くの若者が進学や就職で県外に羽ばたいていく。大学合格後に東日本大震災が発生し、復興の長い道のりをこれから歩み始める被災県での新生活に臨む2人は、何を思っているか。(床並浩一)

東北大工学部

根津真奈奈さん



「美しい仙台の復興見たい」

「被災県で学べることは光栄。どんな状況でも的確に治療する医師に早くなり」と話す。被災地で不眠不休の活動をいとわれない医師の姿も知り、「医師になり、患者さんを助けたい」という気持ちは以前より強くなっているという。山梨市の根津真奈奈さん(18)は甲府第一高校を今春卒業し、東北大(仙台市)工学部に合格した。高2の夏に大学を訪問。施設や研究重視の学風が気に入り、第1志望校に決めた。

震災後、仙台の街並みは一変した。惨状に心を痛めたが、家族や友人、高校の先生らの励ましもあって入学準備を進めた。今月下旬に仙台の大学寮に入る。「航空宇宙工学を一生懸命勉強して、将来は宇宙関係の仕事に就きたい」という夢がある。だが講義の合間には、復興に役立つボランティア活動に積極的に参加しようとした。「震災前のすてきな姿を取り戻してほしい」。復興の行方を見届けたいと思っている。

被災地の大学で学ぶ春

仙台市の矢野文彬さん(18)は駿台甲府高校卒。福島県立医科大医学部(福島市)に合格した。福島県内は地震や津波に加え、福島第一原子力発電所の事故で周辺住民が大規模避難する混乱が続く。同大では入学辞退の合格者も数人出ているが、矢野さんは入学手続きを淡々とすませた。

「被災県で学べることは光栄。どんな状況でも的確に治療する医師に早くなり」と話す。被災地で不眠不休の活動をいとわれない医師の姿も知り、「医師になり、患者さんを助けたい」という気持ちは以前より強くなっているという。山梨市の根津真奈奈さん(18)は甲府第一高校を今春卒業し、東北大(仙台市)工学部に合格した。高2の夏に大学を訪問。施設や研究重視の学風が気に入り、第1志望校に決めた。

TOPIC

甲斐ゼミナール高校部の卒業生二人です。被災地の大学へ羽ばたく二人が朝日新聞の山梨版の記事になりましたので紹介します。